宮島の雪景色

平成 26 年 12 月 17 日。広島県南部に雪が降り、早朝から公共交通機関は運休や遅延など大幅に乱れていました。駅のホームは、戸惑う人々であふれていましたが、私は雪景色の宮島を撮影できる好条件に、心を躍らせていました。

江戸時代に生まれた「厳島八景」の一つには、「御笠濱暮雪」が選ばれています。「芸州厳島図会」は、「御笠濱」を「鳥井（大鳥居）の州ともいふ。また本社あたりをすべていふともいへり」と説明しているので、「御笠濱暮雪」とは、嚴島神社の社殿や大鳥居のある一帯（御笠濱）に降り積もる雪の美しさを示しています。

また、本センターは明治 25 年（1892）小国政筆の錦絵「日本三景の宮島」を所蔵しています。雪が降り積もる大鳥居と嚴島神社を背景に、西の松原で、鮮やかな色合いの着物で着飾る女性たちが、鹿と戯れる様子を描いています。この絵も、あるいは「御笠濱暮雪」が意識された構図かもしれません。

「日本三景の内　宮島」

人々は、これらの絵や「御笠濱暮雪」を題材とした和歌や詩に触れ、宮島の雪景色を、一度は見たいと願ったことでしょう。

本センターの開所は平成 21 年 4 月でした。以来、冬になると宮島の雪景色を撮影すべく機会をうかがっていましたが、なかなか好条件に恵まれませんでした。この日も午後には、石造物に積もる雪が溶けていました。

宮島では、四季や朝夕が異なれば、それぞれ異なる美しさを感じることができます。ぜひ何度も訪れていただきたいと願っています。

（大知　徳子）

（「宮島学センター通信」第 6 号・2015 年 3 月）

平成 26 年 12 月 17 日 撮影